

5.18 第 50 回被ばく学習会 「1 ミリシーベルト」は 政府・東電の約束

片岡輝美さん「モニタリングポストの継続配置を！」

(モニタリングポストの継続配置を求める市民の会・共同代表)

福島原発事故は終わらず、空間線量が年間 1 ミリシーベルトを超える場所も多いのに、原子力規制委員会は福島原発事故後に福島県内に設置したモニタリングポストのうち 2400 台を撤去しようとしています。署名を集め、各市町村議会に働きかけてモニタリングポスト撤去を食い止めてきた福島県民の活動をお話しいたします。



ぬくしな
温品 惇一「線量限度 1 mSv を空間線量計で測るわけ」

(放射線被ばくを学習する会)

原発の建設・運転は住民の誰も年間 1 ミリシーベルト以上被ばくさせないという約束の下で許可されています。放射線は建物で遮蔽されるので、屋内にいる時間が長い人は被ばく線量が低くなります。誰も 1 ミリシーベルト以上被ばくしないためには、屋外の空間線量が年間 1 ミリシーベルトを超えないことが必要です。ガラスバッジなど個人線量計を身に付けて測ると遮蔽された低い線量になります。



モニタリングポスト



空間線量計

第 50 回 被ばく学習会

5月18日(土)

午後1時開場

1時15分～5時15分

文京区アカデミー茗台・学習室A

地下鉄丸の内線「茗荷谷」駅下車、「春日通り」改札を出て右折、春日通りを右へ 徒歩8分、茗台中学校と同じビル隣りの入口から7階へ

参加費：1000円

申込先：anti-hibaku@ab.auone-net.jp

電話：090-3577-4844 (温品;ぬくしな)

懇親会：学習会のあと茗荷谷駅前で、2,000円程度。



放射線被ばくを学習する会 <http://anti-hibaku.cocolog-nifty.com/blog/>

裏も見てね